

わか草



第78号 令和8年4月1日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂3-3-25

新年度のご挨拶

東京都立東部療育センター

院長 伊藤 昌弘

麗かな春の陽気が続く頃となりました。昨年は20周年を迎え、人という20歳は、親への感謝とこれからの責任が必要となる節目となります。

全国重症心身障害児(者)を守る会の「最も弱いものを一人ももれなく守る」という基本理念に沿って重症心身障害児者の医療・福祉・教育における施策の充実を目標として、東京都立東部療育センターの運営理念は、「生命を脅かし機能の低下をきたす状態の克服に向けて最善を尽くします」、「ご本人一人ひとりの思いに応えるように療育の工夫を尽くします」、「提供するサービスの目的と内容をご本人やご家族と十分に話し合い理解して頂けるよう努めます」、「地域と交流を通じ

障害のある人もない人も共に支えあう地域づくりに努めます」の4つを掲げております。

療育は単なる医療、技術や知識だけでなく、多職種で支えあい、「人と人との信頼関係」によって成り立っています。これからも利用者さん、患者さんやそのご家族、そして共に働く仲間と向き合う中で、喜びもあれば、時には悔しさや迷いを感じることもあると思います。しかし、その一つひとつの経験が、人を確かな医療人へと成長させます。次の3つ、学び続ける姿勢、チームワーク、人への思いやりを大切にしてほしいと思っています。

皆さんがこれから歩む道は、決して平坦で楽とは限りません。どうか、自分を信じ、仲間を信じ、このセンターで多くの経験を積み重ねてください。私たちは、皆さんの成長を全力で支えます。

今、ロシアウクライナ戦争が終わることなくイラン戦争がはじまるなど、世界は激動の中にあり日本もその渦の中に飲み込まれる可能性があります。守る会には基本理念を実現するための3原則の一つに「決して争わない」文言があります。この素晴らしい理念や3原則があれば決して戦争は起こらないと思います。共に利用者さんやそのご家族、さらに職員だけでなく、地域で暮らす方々、日本で暮らす方々、そして世界で暮らす方々が一緒に健康と命を守るために歩んでいける社会になればよいと思います。

福祉サービス 第三者評価

今年度の福祉サービス第三者評価は、「特定非営利活動法人NPOサービス評価機構」に依頼して実施しました。定められた基準と手順に基づき、場面観察やアンケート結果も踏まえて評価されています。アンケートにご協力いただいたご家族の皆様へ感謝申し上げます。ここでは、全体講評の概要をご報告いたします。

(特に良いと評価された点)

「入所」

①年間行事や外出活動を通じて季節感を味わい、家族や他者との交流を深め、生活の質の向上を図っている

②経口・経管栄養利用者双方に口腔ケアを徹底し、健康維持と感染予防を図っている

③骨折予防ワーキンググループを設置し、データ分析や情報共有を通じて、組織的に骨折予防対策に取り組んでいる

「通所」

①多職種や地域関係機関と連携し、利用者の微細な変化や意向を把握しながら、個性を踏まえた支援の充実に取り組んでいる

②利用者調査結果では通所により健康状態や感情表現の改善が見られ、利用者・家族に安心感を与える支援体制を整えている

③屋外療育や季節行事など多彩な行事を計画的に実施し、利用者へ五感の刺激を与え、心身の活性化につなげている

(さらなる改善が望まれる点)

「入所」

①業務の属人化防止と安全な支援体制の構築へさらなる取り組みが望まれる

②現場職員の声を分析し、優先順位を明確にし、現実に即した課題解決へさらなる取り組みを期待する

「通所」

①家族の高齢化が進んでいるため、制度情報の提供を充実させ、参加困難な家族も安心して相談できる体制整備が望まれる

②乳幼児通所に関して、親子支援の場としての役割や価値を積極的に発信し、利用につなげる取り組みを進めていくことが期待される

「入所・通所共通」

③職員に対してセンター運営に関する経営層の方針を丁寧に説明し、職員が見通しを持って働けるような取り組みに期待したい

(経営企画係)

かもめ分教室卒業式

令和8年3月24日に東部療育センタープレイルームにおいて、かもめ分教室中学部卒業式が開催されました。

晴れやかなご様子で、ご家族や院長先生はじめ、東部療育センタースタッフの皆様、墨東特別支援学校校長や教員に囲まれて、中学生生活を終え、新しい生活へ向けて第一歩を踏み出しました。中学校生活で培った力を発揮して、充実した高校生活を送って欲しいと願っています。

(かもめ分教室 光岡)



校長先生のご挨拶の様子

音楽を楽しむ集い

3月10日に音楽を楽しむ集いとして、NPO法人「みんなのことば」による演奏会がプレイルームで開催されました。プロの音楽家によるフルート、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロの4つの楽器演奏と歌によるクラシック楽曲を生演奏で鑑賞しました。曲目は、アイネ・クライン・ナハトムジークをはじめ、チャルダッシュ、フニクリ・フニクラ、ラデツキー行進曲と続き、その素晴らしい歌と演奏を楽しくも厳かに聴くことができました。

途中で、楽器や楽譜のエピソードの話などもあり、また楽曲に合わせて手

拍子で参加するなど皆で一緒に楽しみました。予定の楽曲が終わったところで、利用者さまとご家族から拍手とともにアンコールの声があがり、出演アーティストの皆さんもそれに応えて「幸せなら手をたたこう」を演奏してくれました。参加した利用者さまはタンバリンや鈴などの楽器でリズムをとって、会場全体で楽曲と一緒に楽しみました。

今回の演奏会の様子は、各病棟にもライブ中継及び録画され、利用者さま皆さんで特別な音楽の一日を体験できました。

(3階南病棟 小川)



本格的な演奏に合わせて一緒に楽しみましたよ

江東区「障がい者作品展」

2月13日から17日にかけて、江東区文化センターで開催された江東区「障がい者作品展」に、3つの病棟から4作品を出展しました。万国旗をデザインした装飾や力強い書道、四季を鮮やかに表現した紙粘土作品など、力作揃いでとても素敵な展示となりました。

(2階南病棟 小板橋)



素敵な作品の展示となりました

二十歳を祝う会

今年度は2階西病棟2名、通所2名の方が二十歳を迎えられ、1月21日に二十歳を祝う会を開催しました。第一部はプレイルームにて合同式典を執り行い、4名の晴れ姿を一目見ようと大勢の職員が列席して和やかな式典となりました。

第二部は各部署でアットホームなお祝い会を開催し、人生の節目をお祝いしました。

(成人通所 清水)



ご家族とともに、晴れやかな装いで迎えた節目の1枚

第18回院内研究報告会

今年度で18回目の院内研究報告会が3月11日(水)に行われました。今年度もプレイルームでの開催とし、研究報告2題、事例報告7題の計9題のエントリーがありました。

第1部はリハビリテーション科松木さんの「当センターにおける視覚機能評価の試み 第5報」継続評価からみてきた傾向」、薬剤科佐藤さんの「カルニチン補充療法における補充量および投与回数と血中カルニチン濃度との関連」の研究報告と、看護科田中さんの「通所利用者に対する多職種と協働した在宅調整の1例」、看護科中川さんの「重症心身障害児者施設における手指衛生遵守向上への取り組み」個人使用量測定と毎日の使用量の可視化の効果」、看護科岸野さんの「重症心身障害児者施設における看護補助者導入への取り組み」の事例実践報告がありました。



質疑応答の様子

第2部は引き続き事例実践報告が4題、リハビリテーション科小山さんの「重症心身障害児者の手指の握り込みに対する拡散型圧力波治療の効果の検討」、看護科戸田さんの「誤嚥・窒息予防ドリル運用への取り組み」、看護科山本さんの「院内発生褥瘡の傾向分析と今後の課題」、看護科中野さんの「看護相談外来の開設と実践から見えてきた課題」の報告がありました。

第1部、2部ともに認定看護師をはじめとした専門的な分野の発表が多く見られました。専門的な内容でありながらも多職種からも活発な質問や意見が交わされました。



(庶務係)

研究発表をされた皆さん



表彰式の様子
最優秀賞を受賞された山本さん

その後、益山副院長より発表内容を全国へ発信していくことへの期待が述べられ、最優秀賞の発表が行われました。

審査は、抄録、発表資料、発表内容、質疑応答をポイントとして、審査委員により総合的に評価を行い、以下の研究が最優秀賞に選ばれました。

【最優秀賞】
「院内発生褥瘡の傾向分析と今後の課題」
看護科 山本さん

活動紹介

今年度は、リハビリテーション科が1年間連載コーナーを担当させていただくことになりました。

リハビリテーション科には、入所者を対象として作業療法士・言語聴覚士(以下ST)・心理指導員が協働して企画・展開する「グループ活動」があります。今回はST単独で行っている「絵本グループ」をご紹介します。

グループ活動の目的の1つに利用者同士の関わりがあります。STが行うグループ活動は利用者同士の関わりを重視していることが特徴の1つです。

「絵本グループ」では、季節の絵本をデジタル化したもの(デジタル絵本)を進行役のリー

写真につきましては、全て掲載の許可をいただいております。

ダーが朗読します。参加メンバーは固定せず、本の内容に合わせて毎回参加を募る形式をとっています。デジタル絵本とはパワーポイントを使って絵本に音や動きをつけたものです。スクリーンやモニターを使うことでより注視・追視しやすくなり、場面に合わせた音や音楽が流れることで耳でも楽しめる仕様になっています。進行役の合図で声を合わせて台詞を言うことで他利用者を意識し、絵本を見やすく視線誘導することによって他利用者を見ることでグループの一体感も高まります。

重症心身障害児者にとっては、同じ場所において同じ活動をして同じように見ることが、聞くことが難しい場合があります。しかし絵本グループでは「朗読に聞き入る様子」「文節で呼吸」「動く映像



活動中の様子

(リハビリテーション科
言語療法士 根本)

行事食紹介

今年度は1年間、栄養科が担当し、行事食の紹介をしていきます。

「お楽しみランチ」を実施しています。1年毎にテーマを決めてそれに因んだ料理をいつもより手間をかけて作っています。

令和7年度は、「日本のB級グルメ」をテーマとし5月岡山県、7月福井県、8月三重県、9月北海道、11月宮崎県、2月福岡県、3月佐賀県へ「味の旅」を行いました。各回は、料理の発祥地や誕生話を紹介し、その土地の文化も感じることが出来ました。今年度もどうぞお楽しみに！

(栄養科 浦川)

5月 岡山県 えびめし



8月 三重県 トンテキ



9月 北海道 オムカレシ



辞令交付式・採用時全体研修

令和8年4月1日付の新規採用および異動者は、理学療法士1名、作業療法士1名、看護師13名、歯科衛生士1名、生活支援員2名、事務1名でした。

辞令交付式は当センタープレイルームで行い、1人ずつ院長から辞令を受けました。

その後、採用時全体研修の初日として、センターの概要、防火・防災・防犯体制、守る会について、個人情報保護・システムについて、重症心身障害児ご家族のお話などの全体研修を行いました。

ご家族のお話は、昨年度に引き続き、加藤様にこれまでのご経験を通して、当センターに入所されるに至った過程や、入所されてからの生活を通して見えてきたお子さんの成長のお話をいただき、支援の大切さを改めて感



スライドを用いてご講演をいただきました

多くの職員が採用になった令和8年度、各職種協力してセンターを運営していきます。

(広報委員会事務局)

東部あれこれ

冬から春のセンターの動きです。

【1月】

5日、職員に向けて院長挨拶が行われました。16日に通所保護者懇談会、17日には入所家族・成年後見人懇談会が行われ、多くの方にご参加いただきました。

23日、第6回「東京都重症心身障害者プロフェッショナルナース育成研修」修了者実践報告会を当センターで開催し、看護実践の向上につながるため9つの療育施設が集い、報告会と意見交換会を行いました。

31日(土)関東ブロックDMAT訓練・受援側病院の訓練がありました。

【2月】

2日、13日に文教学院大学看護実習、2日、18日に共立女子大学保育実習を受け入れました。

4日、令和7年度第2回総合防災訓練があり、地震・火災対応、上階避難を行いました。

10日、音楽を楽しむ集いがあり、本格的な演奏を楽しみました。

25日、医療安全管理委員会による川柳コンテストの表彰式を行いました。日々の業務の気付きを川柳で表現することで、安全への意識を身近に感じ、職員同士で共有する機会となりました。

(事務長 大野)

編集後記

4月号をお届けします。今年度も引き続き、センターの活動をお伝えしてまいります。

(広報委員会事務局)

←これまでのわか草を
ご覧になりたい方は
こちらからどうぞ



DMAT訓練の様子

